

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 12月号
令和5年 11月30日発行



人権週間

校長 松井 良

毎年12月4日～10日は人権週間です。国連の定める世界人権デーを最終日とした一週間を人権週間と1949年に定め、以後世界各地でイベントが開催され、人権活動を推進しています。法務省のウェブサイトでは、「人権」について以下のように記しています。

「人権」とは「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらにもつ権利」であり、誰にとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって守られるものだと私たちは考えています。

「男のくせに、いつまでピーピー泣いているんじゃない！」子どもの頃母親からこう叱られたことがあります。「男が泣いてよいのは、親が死んだときだけだ」と教えられてきました。「男らしく強く生きてほしい」という願いから、そう躰けたのだと思います。「男のくせに」、「男なんだから」、「男らしく」など「男はこうあるべき」という固定概念や、「男がこうであってはならない」という偏見が、社会全体に蔓延していたのでしょうか、我が家だけが特殊だと思ったことはありませんでした。

赤ちゃんの泣き声が聞こえて「ハイハイ、今行くね、よしよし」と吹き出しが出ます。ビル群の絵をバックに「我が社の経営方針を発表します」と吹き出しが出ます。食事の用意が整った食卓の絵をバックに「ご飯よお」と吹き出しが出ます。校舎の窓から見た教室の絵をバックに「将来の夢はパイロットです」と吹き出しが出ます。夜景の見えるラウンジの絵をバックに「支払いがカードで」と吹き出しが出ます。熊のぬいぐるみの並んだ商品棚の絵をバックに「ピンクのがいい」と吹き出しが出ます。空き地に置かれたサッカーボールの絵をバックに「サッカーしようよ」と吹き出しが出ます。ベッドと体温計の絵をバックに「子どもが熱を出したので有給を取らせてください」と吹き出しが出ます。そして最後に「聞こえてきたのは、男性の声ですか、女性の声ですか」という音声流れます。更に「無意識の偏見に気付くことから始めませんか」という文字が画面に現れます。ACジャパンのCMとしてテレビ放映されています。

中学校では、制服選択制の取組が全国で広がっています。今まではスラックタイプを「男子型」スカートタイプを「女子型」と呼んでいたところを「A型」「B型」のように呼び方も変更しているそうです。以前「スチュワーデス」と呼ばれていた職業は、「キャビンアテンダント（客室乗務員）」と変わりました。「保母」ではなく「保育士」、「看護婦」ではなく、「看護師」とジェンダーレス社会の実現に向けた取組は、少しずつではありますが前進しているようです。

12月9日（土）13時30分から、「こどもからの人権メッセージ発表会 in 奥多摩」が奥多摩文化会館2階の視聴覚室にて開催されます。西多摩地区の8市町村の小学生が「人権の大切さ・素晴らしさ」をテーマに、日常生活の中での気付き・体験を発表します。「人権」について改めて考えるきっかけとして、児童の意見発表を聞いてみるのはいかがでしょうか。

